Ⅱ　部門別活動報告

緩和医療科

緩和医療科長　平野 拓司

「いつでも、どこでも、その人らしく。～磐井病院緩和医療科～」

歴史的には、『寿命が近づいてきた時の苦しみを和らげるため』に“緩和ケア”が発展してきました。しかし、現在は、『診断された時から、どの時期でも“苦痛を和らげること”』が、緩和ケアの基本とされるようになりました。

『磐井病院　緩和医療科』では、寿命が近づいた時はもちろん、抗がん剤治療中などでも、苦痛を和らげるお手伝いができれば、と考えています。“(基本的)緩和ケア”は、治療の先生方によって行われておりますが、症状緩和が困難な症例や、精神的な不安など、ゆっくり時間をとってお話をする必要がある患者さんについては、『緩和医療科』でもお手伝いをさせていただいております。また、大きな症状がない時期から受診していただくことにより、『緩和ケア＝末期』という誤解を解いて、症状緩和を充分に行っていけるものと考えております。

人生の最後をどのように過ごすかは、その人の、それまでの生き方を映しているのかもしれません。苦悩、悩みに苦しむのかもしれません。緩和ケアでは、『その人らしく』、を大切にしています。もがき苦しむ事さえも、その人らしさととらえて、その苦しみに寄り添いながら、苦しみの中にも一筋の光が見えてくれば、と思っています。

緩和ケア病棟でも一般病棟でも、自宅でも施設でも、地域の医療機関などと連携しながらこの地域の緩和ケアを支えていければ、と考えています。

（なお、“緩和ケア”の考え方は、「がん」に限らないのですが、“緩和ケア病棟”は診療報酬上、現在は、「がん(悪性腫瘍)」（とＡＩＤＳ。磐井病院では実績はありません)の患者さんに限定されていることを申し添えます。）

＜診療実績＞（平成 28 年度）

●緩和医療科外来

平成 28 年度の外来受診患者数は、のべ 1,378 名受診（1 日平均 5.6 名/平日 244 日）

※新患患者数 249 名（うち、他院からの紹介 75 名）

●緩和ケア病棟

平成 28 年度入院数　入院患者数 165 名、退院患者数 174 名、うち死亡退院患者数 134 名、1 日平均入院患者数 15.5 名

●緩和ケアチーム

平成 28 年度の依頼患者数 60 名(入院中に緩和医療科に紹介となった分)

緩和ケア病棟入棟希望・緩和医療科外来受診希望の場合

主治医の先生が「緩和医療科受診」が望ましいと思われた場合や、患者さんが受診を希望された場合 →「磐井病院 地域医療福祉連携室」あてにご連絡ください。あるいは、直接担当医（平野拓司）宛にご相談いただいても構いません。

医療関係者の皆様へ

緩和ケア病棟の見学、緩和医療科での研修は、いつでもご連絡ください。ご相談の上、できるだけご希望に添って受け入れたいと思います。当院の緩和ケア病棟は「日本緩和医療学会認定研修施設」です。

消化器科

消化器科長　菅野 記豊

まず始めに、前年度末から今年度にかけての人事異動について記したい。

小林茂之医長が昨年度一杯で白河厚生総合病院に異動となった。小林先生は平成 21 年４月から 28 年３月までの丸７年間の長期にわたり当院で勤務され、臨床、研修医指導その他多方面にわたりご活躍頂いた。後任として、東北大学病院消化器内科より本田純也先生が４月１日付で赴任となった。本田先生は東北大学病院時代は小林先生同様主に上部消化管グループで研鑽を積まれた。若手のホープであり、大変向上心に溢れ、誠実な人柄でもあり、小林先生が抜けることで出来てしまった穴を十分埋めてくれ感謝している。

一方で、飛澤笑山先生が８月 31 日一杯で退職され、石巻市立病院に異動となった。飛澤先生は震災前までは、石巻市立病院で勤務しておられ、津波により病院が壊滅的な被害を受け閉院を余儀なくされたため大崎市民病院に異動し、その後平成 24 年４月に当院に赴任された。臨床面では大変積極的な先生で、当科にとってはまさに貴重な戦力であり、飛澤先生が抜けるのは大変な痛手であったが、昨年９月に石巻市立病院が新病院として再開することになり、消化器内科部長としてまさに病院の要としての役割を期待されて熱心に勧誘を受けていた。そのような特別ないきさつがあり、異動に同意するより他なかった。新天地でのご活躍をお祈りしたい。

また、佐野晃俊先生は、初期研修医として採用後丸４年当院に在籍され、特に後半２年間は消化器科後期研修医として研鑽を積まれたが、今年度限りで当院を退職し、４月からは東北大学大学院医学系研究科に進むことになった。東北大学では消化器病態学（消化器内科）に所属し、特に肝臓グループの一員として新たな一歩を踏み出すことになった。更なるご発展に期待したい。

臨床面で言えば、上部・下部消化管、肝臓、膵臓、胆道系疾患等の消化器疾患は勿論のこと、糖尿病等の生活習慣病や内分泌疾患に至るまで幅広くカバーし、前年度までの業務を踏襲しつつ、さらに各自が技量の向上を目指す形で一年間取り組んだ。臨床上大きな問題もなく、岩手県南における消化器領域の基幹医療機関としての責任を概ね果たすことができたのではないかと自負している。

以下が今年度当科で常勤医として勤務された消化器科医師名である。

菅野記豊　　消化器科長
横澤聡　　医療研修科長、内視鏡科長

小川千恵子　内科医長
飛澤笑山　　消化器科医長（平成 28 年８月 31 日付けで退職）
荒井壮　　消化器科医長
本田純也　　消化器科医長
小岩井明信　消化器科医長
佐野晃俊　　後期研修医

＜診療実績＞ 検査・治療件数（平成 28 年度）

上部内視鏡検査	2,615
食道･胃ＥＵＳ	59
内視鏡的食道粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術）	1
食道狭窄拡張術	28
食道ステント留置術	9
食道ＡＰＣ（止血）	3
食道ＡＰＣ（腫瘍切除）	3
内視鏡的硬化療法	10
内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術	12
内視鏡的食道及び胃内異物摘出術	5
内視鏡的胃ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜切除術・粘膜下層剥離術）	54
内視鏡的胃ポリープ・粘膜切除術（その他のポリープ粘膜切除術）	6
内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術	5
内視鏡的消化管止血術	93
内視鏡的胃、十二指腸ステント留置術	20
内視鏡的胃、十二指腸狭窄拡張術	13
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術）	26
胃アルゴンプラズマコアグレーション（止血）	5
胃アルゴンプラズマコアグレーション（腫瘍切除）	1
小腸結腸内視鏡的止血術	22
小腸・結腸狭窄部拡張術	0
小腸ファイバースコピー（カプセル型内視鏡）	1
小腸ファイバースコピー（その他）	1
下部内視鏡検査	1315
下部消化管止血術	39
内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術	393
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	33
下部消化管ステント留置術	13
大腸ＡＰＣ（止血）	9
注腸検査	13

肝ＴＡＥ（ＴＡＣＥ）	50
肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（一連として）	10
内視鏡的胆道ステント留置術	78
内視鏡的胆道拡張術	18
内視鏡的乳頭切開術（乳頭括約筋切開のみのもの）	138
内視鏡的乳頭切開術（胆道砕石術を伴うもの）	4
内視鏡的胆道結石除去術（その他のもの）	0
胆嚢外瘻造設術	18
経皮的胆管ドレナージ術	3
経皮経肝胆管ステント挿入術	1
内視鏡的経鼻胆管ドレナージ術（ＥＮＢＤ）	7
経皮的肝膿瘍ドレナージ術	2
内視鏡的膵管ステント留置術	26
胸水・腹水濾過濃縮再静注法	50
腹部エコー	1675
造影超音波	6

循環器科

第１循環器科長　小野寺 洋幸

診療科紹介

＜循環器救急診療＞

循環器疾患は救急患者が多いことが特徴です。当科は岩手県南の地域中核病院として専門的診療の必要な循環器疾患患者が来院、またはかかりつけの医療機関から紹介された場合、迅速に対応いたします。特に緊急性の高い急性心筋梗塞などに対しては 24 時間対応できるよう努力しております。

＜高度診療＞

心臓カテーテル検査を中心とした冠動脈疾患の精密検査、経皮的冠動脈インターベンション、ペースメーカ移植術などの高度診療を積極的に行い、エビデンスに基づいた質の高い医療を提供します。

＜動脈硬化性疾患の予防＞

二次予防の観点から動脈硬化の評価、食習慣・生活習慣の指導、糖尿病・高血圧症・脂質異常症など危険因子の管理・指導を行ない地域住民の健康増進をはかります。

＜病診連携＞

当科では上記のように救急診療や高度診療に力を注ぎたいと考えており、病状が安定した時点で紹介元や開業医の先生での治療継続を勧めております。なお、定期的な専門診療や病状が不安定化した際は当科で対応させていただくよう、連携を進めていきたいと考えております。

＜対象となる疾患＞

虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、心不全、心臓弁膜症、心筋症、不整脈、高血圧症、動脈硬化症　など

＜施設認定＞

日本内科学会認定教育関連病院、　日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

＜診療実績＞（平成 28 年度）

冠動脈造影	251
経皮的冠動脈インターベンション	90
経皮的腎動脈形成術	0
恒久的ペースメーカー移植・交換術	53
大動脈バルーン・パンピング	5
下大静脈フィルター留置術	1
心嚢ドレナージ	1
心エコー	2,138

頸動脈エコー	109
腎動脈エコー	19
ホルター心電図	779
トレッドミル負荷心電図	311
心臓核医学検査	11
冠動脈ＭＤＣＴ	16
睡眠時ポリグラフィー検査	33

小 児 科

小児科長　丸山 秀和

＜特徴＞

平成 28 年度は、当科は常勤医４人体制にて診療を行っております。

当科は両磐地区、奥州市や宮城県北の一部の小児医療の中核として一般外来、慢性外来、乳児健診、予防接種、時間外診療、および入院業務を行ってきております。非常勤として齋藤智子先生、井本成昭先生に一般外来や予防接種等の応援をいただいております。慢性疾患外来については、岩手医大より心臓外来、腎臓外来、神経外来、血液外来、もりおかこども病院の米沢院長先生よりの診療応援をいただいております。また、臨時ですが、埼玉医科大学循環器小児科や東邦大学大森病院小児科より診療応援をいただきました。診療応援をいただいております先生方にはこの場をかりて感謝申し上げます。

外来は、月・火・木・金曜日の午前中は一般外来を行っております。ここでは急性期疾患を中心とした診療を行っております。また、月曜日の午後は予防接種、水曜日は全日乳児健診（午前中は６～７ヶ月・９～10 か月・１歳児健診、午後は１ヶ月健診）、火・金曜日の午後は慢性疾患外来の診療を行っております。

入院につきましては、気道感染症、急性胃腸炎等急性疾患や気管支喘息発作といった疾患の入院が多くを占めました。その他、熱性けいれん、てんかん、川崎病等様々な疾患の入院がありました。

両磐地区、奥州市や宮城県北の一部の小児医療につきまして、慢性疾患外来や入院業務を中心とした同地域における中核的な役割を担った医療を今後とも継続して提供していけるように心がけていきたく存じます。

＜診療実績＞（平成 28 年度）

入院患者延数	3,947		外来患者延数	11,242
当年度入院	874		新 患 数	3,298

新生児科

新生児科長　天沼 史孝

＜特徴＞

当院新生児科は両磐地方における基幹病院としてのみならず、岩手県奥州市から宮城県北(栗原市、登米、気仙沼)にわたる医療圏を有しています。

在胎 28 週からの新生児入院に対応しており、平成 23 年４月に岩手県地域周産期母子医療センターとしての運営が開始されました。

より良い医療、安心、安全を提供するため週１回の新生児科、産婦人科および病棟スタッフとの周産期カンファレンスを開催し、周産期チームとしての意思統一を図っています。

＜対象となる疾患＞

早産児、低出生体重児、呼吸障害、感染症、新生児黄疸、低血糖症、先天性心疾患、染色体異常等の疾患

＜施設認定＞

日本小児科学会専門医研修関連施設

日本周産期・新生児医学会暫定研修施設

岩手県地域周産期母子医療センター

＜蘇生法講習会＞

毎年、１回の日本周産期・新生児医学会認定の新生児蘇生法講習会(専門コース)を開催しており、平成 27 年からは研修医必修の講習会に位置づけられ初回の講習会を開催した。

＜診療実績＞（平成 28 年度）

入院　185 人

超低出生体重児	2 人	極低出生体重児	2 人	低出生体重児	86 人
新生児黄疸	66 人	感染症	39 人	低血糖症	50 人
先天性心疾患	4 人	染色体異常	1 人	その他	0 人

外来　1,405 人（新患 50 人）

シナジス接種適応患児	72 人
その他、慢性外来(健診・予防接種など)	789 人

＜スタッフ紹介＞

医師名	専門分野	主な資格
天沼 史孝	新生児医療	日本小児科学会認定医・専門医　認定小児科指導医
		日本周産期新生児医学会　新生児蘇生法
		「専門」コースインストラクター
		ＤＭＡＴ
		厚生労働省　臨床研修指導医

外　科

外科長兼内視鏡外科長　阿部 隆之

消化器外科、乳腺・内分泌外科、血管外科を中心として、これらの分野に精通している医師がそろっており、常に最新の手術や管理を取り入れ、治療成績の向上を目指しています。呼吸器外科、小児外科は標榜しておりませんが、他施設より専門医を招聘しての手術を行なっていますので、ほとんどの外科分野に対応できます。

当院は、「がん連携拠点病院」を標榜しており、両磐地区の「がん」診療の中心として、開業医の先生方と密に連携を取り、地域に密着した医療に取り組んでおります。また、重篤な病態の患者においては、東北大学外科学講座、岩手医科大学外科学講座と連携し、疾患に応じた適切な治療を選択するようにしています。

① 消化器内視鏡外科症例が増加した。2016 年はスタッフの入れ替えがなかったので、腹腔鏡手術もより洗練され、大腸手術においては、結腸・直腸とも鏡視下手術率がそれぞれ、53%、60%とはじめて５割を超えた。全国のＮＣＤ登録の鏡視下率を上回っている。

② 副院長兼乳腺外科長、佐藤耕一郎が乳腺専門医資格を維持。東北大学腫瘍外科学講座より、月２回、乳腺専門医の専門外来を継続的に行なっている。

③ 急性虫垂炎について、重篤な感染状態でも、敗血症でなければ保存加療ののちに腹腔鏡で虫垂切除を行なう、待機的虫垂切除が導入され、開腹率は大きく低下し、術後膿瘍の再発等の合併症も大幅に減少した。

前述の通り、2016 年はスタッフの交代がなく、手術をはじめとした治療で、安定したメンバーを組むことができ、技術の洗練に重きを置いた診療を行なったつもりである。

＜診療実績＞ 手術件数（2016 年 1 月～2016 年 12 月）　（単位：件）

総手術件数	751
緊急手術	113
成人ヘルニア【15 歳以上】	94（ 5）
小児ヘルニア	18

腸閉塞		31（15）
胃　癌	全　摘	16（ 5）
	亜全摘	22（ 9）
	GIST･その他	2（ 2）

内 分 泌	甲状腺悪性腫瘍	5
	甲状腺良性腫瘍	7
乳　　腺	乳癌（温存）	17
	乳癌（全摘）	23
呼 吸 器	肺悪性腫瘍	2（ 2）
血　　管	血行再建（IVR）	15（ 7）
	大動脈瘤	2
	下肢静脈瘤	13
胆嚢摘出		89（78）
虫垂切除		34（30）

食 道 癌		3（ 2）
結 腸 癌		62（33）
直 腸 癌		30（18）
肝　　臓	悪性腫瘍	5（ 4）
膵　　臓	膵頭十二指腸切除	10
	その他の膵切除	1
痔核手術		25
汎発性腹膜炎		36
外　　傷		1

※（　）内は内視鏡手術の件数

今後、

ⅰ）進行癌についても、十分な根治性を維持しつつ、内視鏡治療適応を拡大し、より低侵襲手術を提供するため、外科医の技術修練を継続して行なう。

ⅱ）ERAS(術後回復強化プログラム)導入し、多職種連携によって患者の回復を早めていく。

以上のような計画で、地域診療を担っていく所存です。

整形外科

整形外科長　中山 明里

＜特徴＞

整形外科ではいわゆる「運動器」の疾患・外傷を扱っています。首から下、足の先までの骨、関節、筋肉、神経などが対象になります。

現在の常勤医師は４名で、整形外科専門医が２名在籍しています。

交通事故、労災事故、転倒などによる外傷は基本的にすべて受け入れており、良好な機能回復をめざして手術を行っています。

整形外科も細分化してきていますが、専門医が得意とする分野は、

・人工股関節置換術

・超音波による乳児の股関節脱臼の診断

・膝関節の関節鏡視下手術

・肩関節の関節鏡視下手術などです。

この他の専門分野では、東北大学病院等からの応援を得て、可能な限り当院で対処するようにしています。

年間の手術数は、2016 年度が 479 件でした。最も多いのは高齢者の転倒による大腿骨頚部骨折です。原則として手術を行っています。高齢者は内科的な疾患を合併している人も多いのですが、他科の協力も得て、できる限り安全に手術を行うように努力しています。またこの骨折ではリハビリを含めて一般的には２～３か月の入院が必要になりますが、急性期病院の当院では長く入院することが困難です。そこで、「大腿骨頚部骨折地域連携パス」を導入し、地域のリハビリ入院ができる複数の医療機関等と連携し、より高いレベルまで回復できるように取り組んでいます。

外来診療は完全予約制ですが、予約されていても急患対応、緊急手術などでお待たせすることが多々あるようです。また入院病床が少ないため、日常生活が不自由な状態での通院治療や早期退院をお願いせざるを得ない場合があります。諸事情をご賢察のうえご理解とご協力をお願いいたします。

脳神経外科

副院長兼脳神経外科長　齋藤 桂一

＜特徴＞

当科では手術の必要な脳疾患や頭部外傷を中心に、広く地域医療に貢献することを目標としています。

＜対象となる疾患＞

脳卒中は主にくも膜下出血と脳出血、外傷は脳挫傷、頭蓋内出血、慢性硬膜下血腫などが入院患者の多数を占めます。外来診療では手術後の患者さんの経過観察や、かかりつけ医の先生方からの紹介による脳疾患の精査、大がかりな治療が必要な患者さんには大学病院などへの紹介も行っています。また、専門外来として難治性てんかんの患者さんの治療を行っています（東北大学てんかん科：１ヶ月に１回）。

＜設備＞

診断機器：ＭＲＩ、MD-ＣＴ、ＤＳＡ、ガンマカメラ、脳波計

手術機器；手術用顕微鏡（蛍光血管撮影つき）、神経内視鏡

＜手術件数＞（平成 28 年度）

脳腫瘍摘出術	2
脳動脈瘤クリッピング術	19
脳内血腫摘出（吸引）術	2
慢性硬膜下血腫穿頭洗浄術	61
水頭症手術	8
外傷性頭蓋内出血（開頭）	0
脳神経血管減圧術	0

＜施設認定＞

日本脳神経外科学会専門医研修プログラムによる研修施設

＜スタッフ紹介＞

医師名	役　職	資 格 等
齋藤 桂一	副院長兼脳神経外科長	脳神経外科専門医
藤原 和則	脳神経外科医長 第二リハビリテーション科長	脳神経外科専門医 日本頭痛学会認定指導医
高橋 昇	脳神経外科医長	脳神経外科専門医

鮠名 勉	非常勤	脳神経外科専門医 日本頭痛学会認定指導医

形成外科

形成外科長　本庄 省五

＜特徴＞

形成外科とは、身体に生じた組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な不満足に対して、「あらゆる手法や特殊な技術」を駆使し、機能のみならず形態的にもより健常に、より美しくすることによって、みなさまの生活の質 ″Quality of Life″ の向上に貢献する、外科系の専門領域です。

当院の形成外科は、県内では岩手医科大学に次いで患者数が多く、同大学以外では唯一、日本形成外科学会の研修認定施設になっています。

＜対象となる疾患＞

口唇裂口蓋裂症・眼瞼下垂症などの顔面先天異常、手足の先天異常、顔面骨骨折などの顔面外傷、皮膚悪性・良性腫瘍の切除と再建、切断指再接着を含む手の外科、褥瘡・難治性潰瘍、熱傷、瘢痕拘縮・ケロイドなど、関連各科・大学病院と協力・連携を保ちながら幅広く診療を行っています。

＜診療内容＞昨年の年間手術数は 426 例

★口唇裂・口蓋裂症はまだ認知度が低く当院での症例数はそれほど多くありませんが、大学病院での約 20 年の経験を踏まえ積極的に治療にあたっています。関連各科と協力し、岩手医科大学の矯正歯科で生後早期から術前顎矯正を行い、生後 3 ヶ月前後で口唇形成術、1.5 歳前後に口蓋形成術、10 歳前後で歯槽裂部骨移植、高校生以降に最終的な修正を行っています。

★眼瞼下垂症は先天的な下垂の治療はもとより、最近はご高齢の方やコンタクト・レンズの長期間の使用による下垂症が増加してきています。まぶたが開きにくくなるため額にしわを寄せ、眉毛を挙げてものを見ようとするので、特有の顔貌となります。またこれが、肩こりや高血圧など他の疾患の誘因になっているとも言われています。比較的低侵襲の手術で治療効果が大きいので、高齢者の方にも施行可能です。

★顔面外傷の治療は、軟部組織損傷では目立つ傷跡が出来るだけ残らないように治療しています。骨折でも皮膚切開線ができるだけ目立たないように配慮し、骨折固定用プレートはあとで抜釘する必要のない、溶けて無くなる吸収性プレートを積極的に使用しています。

★手足の先天異常では、１歳前後の小児の患者さんが中心となるため、安全な治療を第一に心がけています。また合指（趾）症では術後整容的に問題となる植皮術の必要のない皮弁法を用いています。

★手足の外傷は 154 例でした。軟部組織損傷、骨折、腱損傷が多く、切断された指を手術用顕微鏡下に再接着する切断指再接着術にも対応しています。

★皮膚腫瘍は良性 102 例、悪性８例を治療しました。特に顔面の皮膚悪性腫瘍は、外科的治療による生存率の向上はもとより、できるだけ健常に近い顔貌になるよう形成外科的な手法を駆使して再建に努めています。

★褥瘡・難治性潰瘍の治療は、手術症例のみならず高齢者の褥瘡、内科的潰瘍を最新の創傷治癒理論に基づく治療で成果を上げています。また、褥瘡予防対策委員会を設け、看護科、薬剤科、栄養科、リハビリ科と協力して活動し、予防にも力をいれています。

＜施設認定＞

日本形成外科学会　教育関連施設（専門医取得可能）

皮 膚 科

皮膚科医長　濱端 明海

＜紹介＞

先端医学技術を駆使して診断にあたる時代ですが、皮膚疾患の診断は“百聞不如一見”。　まずは目で診て、手で診る（触れる）、耳で診る（聞く）、 あるいは嗅いでもみるという五感が最たる診察道具です。生まれてから人生を全うするまでのあらゆる年齢層の頭のてっぺんから，足のつま先までの皮膚病変 を扱います。

外来ではアトピー性皮膚炎、接触皮膚炎などの湿疹皮膚炎、天疱瘡、類天疱瘡などの水疱症、皮膚悪性腫瘍、伝染性膿か疹、帯状疱疹、カポジ水痘様発疹症などの感染症、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎などの膠原病、さらには乾癬、薬疹、脱毛症、真菌症など多岐にわたる皮膚科全般疾患を診療します。薬物療法の他に紫外線療法、アレルギー検査、皮膚生検など随時行っています。

＜診療実績＞（平成 28 年度）

有棘細胞癌	18 件
悪性黒色腫	12 件
その他の皮膚がん（基底細胞癌・Paget 病など）	11 件

１日平均外来患者数	31.9 人
１日平均入院患者数	1.0 人

泌尿器科

泌尿器科長　竹田 篤史

＜特徴＞

当泌尿器科では、主に腎臓、副腎、膀胱、前立腺、精巣などの泌尿器系臓器に生じたがんや結石、前立腺肥大症、小児の尿路性器先天性疾患を診療しております。腎臓がんや前立腺肥大症の内視鏡手術には特に力を注いでいます。

＜対象となる疾患＞

前立腺肥大症、腎癌、腎盂癌、尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣癌、腎結石、尿管結石、膀胱

結石、副腎腫瘍、停留精巣 など。
※タンパク尿、糸球体腎炎、血液透析など腎内科領域や腎不全に関する専門的診療は行っておりません。
＜診療内容＞
1　前立腺肥大症
　高齢男性の排尿困難の多くは前立腺肥大症によるものです。前立腺超音波検査、残尿測定、前立腺癌のスクリーニング検査などで病状を正確に把握した後に、症状に応じて経過観察、内服治療、手術療法を行います。
　前立腺肥大症の手術として、2010年４月より新しいＴＵＥＢ手術を導入しました。ＴＵＥＢ手術は従来の内視鏡手術に比べて出血が少なく体への負担が少ない上に治療効果も高く、レーザー治療に並ぶ新しい術式として全国で注目されています。
2　腎癌／腎盂尿管癌
　当科には2010年４月より県内には数少ない日本泌尿器科EE学会 腹腔鏡技術認定医が着任し、腎癌／腎盂尿管癌に対する腹腔鏡手術を本格的に導入しました。腹腔鏡腎手術は従来の手術に比べて体への負担が少なく術後の回復も早いため、全国で急速に広まりつつあります。
3　膀胱癌
　膀胱癌は癌進行の程度によって治療方針が大きく変わります。早期癌は簡便な内視鏡手術のみで治すことができますが、癌が進行して大きくなってくると抗癌剤、放射線治療、開腹手術、苦痛緩和療法などのさまざまな方法を組み合わせる必要があり、治療期間も長くなります。磐井病院泌尿器科では、「最小の負担で最大の治療効果」をあげられるよう、院内各科と連携しつつ治療に臨んでいます。
4　前立腺癌
　当科では早期診断と早期癌に対する根治手術／放射線治療に力を入れています。また最新の低侵襲治療がふさわしいと思われる患者さんでは、必要に応じて県内外の大学病院などをご紹介可能です。
5　腎結石、尿管結石
　尿路結石に対しては主に薬物療法、内視鏡手術を行っています。体外衝撃波結石破砕術がふさわしい患者さんについては、県内外の有力病院との連携下に治療を進めています。
6　小児包茎
　近年では小児包茎のほとんどは手術しなくても成長と共に自然軽快することがわかってきました。当科でもお子さんへの不要な手術を極力避ける方針で外来治療を行っています。
7　小児停留精巣
　停留精巣とは検診などで指摘される精巣位置の先天的な異常です。生後一年までは自然軽快を期待して経過観察しますが、１才をすぎても自然軽快しない場合は入院手術をお勧めします。当院での手術は小児育成医療の医療費助成の対象になります。（入院前に手続きが必要です。）
＜施設認定＞
日本泌尿器科学会専門医教育施設

＜診療実績＞（平成 28 年度）

疾患名	術式	件数	疾患名	術式	件数
膀胱癌	尿路内視鏡手術	52	尿管結石	尿路内視鏡手術	18
	開腹手術	1	膀胱結石	尿路内視鏡手術	4
腎癌/腎盂尿管癌	腹腔鏡手術	12	腎結石	尿路内視鏡手術	2
	開腹手術	5	小児停留精巣	精巣固定術	9
前立腺癌	開腹手術	7	真性包茎	包茎手術	2
	腹腔鏡手術	1	陰嚢水腫	水腫根治術	2
精巣癌	根治手術	1	尿膜管	腹腔鏡手術	3
精巣捻転	精巣固定術	2		その他手術	1
陰茎癌	根治手術	1	その他	開腹手術	1
前立腺肥大症	HoLEP	7		尿路内視鏡手術	4
				その他手術	6

産婦人科

周産期医療科長　菅原　登

＜特徴＞

産婦人科は女性生殖器（子宮、卵巣、卵管、腟）、および女性生殖器に関連した内分泌器官（視床下部、下垂体、乳房）を扱う診療科です。

当院産婦人科は両磐地方における基幹病院としてのみならず、岩手県水沢地方から宮城県北（栗原市、登米市の一部）にわたる総人口約 30 万人の医療圏を有しています。

産科分野においては新生児科の協力のもとに妊娠 28 週以降の分娩に対応しています。また、妊娠・分娩・産褥期間の安心、安全を提供するために週 1 回の産婦人科、新生児科、および病棟スタッフとのカンファレンスを開催し、周産期チームとしての意思統一を図っています。

平成 23 年 4 月からは岩手県地域周産期母子医療センターとしての運営を開始しております。

婦人科分野においては良性疾患から悪性疾患まで幅広く対応が可能です。良性腫瘍の治療には腹腔鏡下手術も積極的に取り入れています。悪性腫瘍に対しては手術や化学療法のみならず、緩和医療にも力を入れています。

＜対象となる疾患＞

産　科：正常、異常によらず妊娠にかかわる全般および妊娠 28 週以降の分娩。

婦人科：感染症、腫瘍、月経困難症、内分泌異常、更年期障害、性器脱等の診断と治療。

＜施設認定＞

日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設

日本周産期・新生児医学会周産期（新生児）暫定研修施設

岩手県地域周産期母子医療センター

母体保護法指定施設

＜診療実績＞（平成 28 年度）

手術件数：総手術件数 361 件（開腹手術 219 件、腹腔鏡下手術 82 件、経腟手術 54 件、その他６件）分娩：675 件（うち帝王切開分娩 210 件、双胎５件）

放射線治療科

放射線治療科長　阿部 恵子

＜特徴＞

放射線治療科は、2015 年７月より常勤（１名）体制となり早１年半となりました。院内紹介のみでなく、近隣の病院からも幅広くご紹介をいただき、患者数も少しずつ増加してきています。直線加速器（リニアック）によるＸ線、電子線を用いた放射線治療（体外照射）のほか、2017 年３月からは有痛性骨転移治療薬メタストロン注が投与可能となりました。今後も地域のがん治療に貢献すべく、放射線技師、看護師とともに協力しながら日々診療に励んでいく所存です。

＜スタッフ紹介＞

１　医師名（職名）等

阿部 恵子　放射線治療科長　平成 17 年度東北大学卒

２　専門分野

Ｘ線、電子線による体外照射

３　主な資格等

日本医学放射線学会専門医

＜診療実績＞放射線治療患者数（2016 年 1 月～2016 年 12 月）

乳癌	53 件
前立腺癌	30 件
肺癌	4 件
食道癌	6 件
膵癌	3 件
骨転移	23 件
脳転移	9 件
その他	34 件
計	162 件

画像診断科

画像診断科長兼放射線科長　照山 和秀

＜特徴＞

画像診断科では、ＣＴ・ＭＲＩ・血管撮影・核医学検査などの画像診断全般、画像ガイド下による生検やドレナージ、カテーテルを用いた血管内治療を１名の診断専門医（常勤）が担当しています。

＜スタッフ紹介＞

１　医師名（職名）等

照山 和秀　画像診断科長兼放射線科長　平成６年度東北大卒

２　専門分野

（１）カテーテルを用いた血管内治療。（悪性腫瘍に対する抗癌剤動注療法や塞栓術、動脈瘤・動静脈奇形・喀血・不正出血などに対する動脈塞栓術、閉塞性動脈硬化症や透析シャント狭窄に対する血管拡張術など）

（２）画像ガイド下での生検やドレナージ。

（３）ＣＴ・ＭＲＩ・核医学などの画像診断。

３　主な資格等

日本医学放射線学会専門医

＜診療実績＞読影件数（2016 年 1 月～2016 年 12 月）

ＣＴ	4,020 件
ＭＲＩ	1,031 件
シンチ	327 件
アンギオ	73 件
一般撮影	14 件
計	5,465 件

歯科口腔外科

歯科口腔外科長　石川 義人

＜特徴＞

当科では、口腔およびその周辺組織の外科的治療（抜歯、炎症、損傷、腫瘍、アレルギー、神経疾患、感染症等）および有病者の歯科治療を中心として診療を行っております。

つきましては、う蝕（虫歯）、歯周病等の一般的な歯科治療の患者さんは、地域の開業医との連携を図りながら治療を進めてまいります。患者さん方のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いします。

＜施設認定＞

日本口腔外科学会認定関連研修施設

＜診療実績＞（平成 28 年度）

手術件数（外来）		入院症例	
区　分	件数	区　分	件数
抜歯手術（埋伏歯）	178	抜歯手術（埋伏歯）	68
抜歯手術（前歯）	68	抜歯手術（前歯）	4
抜歯手術（臼歯）	231	抜歯手術（臼歯）	34
抜歯手術（乳歯）	3	抜歯手術（乳歯）	2
頬腫瘍摘出術（その他のもの）	1	顎骨腫瘍摘出術（3cm 未満）	7
頬腫瘍摘出術（粘液嚢胞摘出術）	5	顎骨腫瘍摘出術（3cm 以上）	6
頬粘膜腫瘍摘出術	2	上顎洞根治手術	1
創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの【5cm 未満】）	5	頬粘膜腫瘍摘出術	2
創傷処理（筋肉、臓器に達するもの【5cm 未満】）	3	舌腫瘍摘出術（その他のもの）	1
舌腫瘍摘出術（粘液嚢胞摘出術）	1	創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの【長径 5cm 未満】）	1
舌腫瘍摘出術（その他のもの）	5		
顎関節脱臼非観血的整復術	9		
口唇腫瘍摘出術（粘液嚢胞摘出術）	3		
口唇腫瘍摘出術（その他のもの）	3		
顎骨腫瘍摘出術【長径 3cm 未満】	4		
小児創傷処理（６歳未満・筋肉、臓器に達するもの【長径 5cm 以上 10cm 未満】）	1		
唾石摘出術（一連につき・表在性のもの）	2		
合計	524	合計	126

麻 酔 科

麻酔科長兼中央手術科長　須田 志優
麻酔科医長　叶城 倫子

＜診療科紹介＞

麻酔科では術中管理を中心に、周術期全般に渡る患者の全身管理を担当科と協力して行っております。

平成 28 年度は後期研修医１名が在籍し、延べ２年間の研鑽を積んだ結果、標榜医資格申請に至りました。また、自施設のみならず他院（県立大船渡病院、平成 29 年度は東北大学病院）からも初期研修医も受け入れました。今後も岩手医大・県立中央病院・東北大の基幹研修施設・関連研修施設として後進の育成に励みます。

上記に平行して、救急救命士等の研修も受け入れております。平成 28 年度は一関市消防本部、久慈広域連合消防本部及び栗原市消防本部に所属する救急救命士の就業前病院実習（３名）、再教育実習（11 名）、気管挿管実習（６名）、ビデオ喉頭鏡挿管実習（10 名）、救急隊員資格者病院実習（10 名）を実施しました。

＜診療実績＞（2016 年 1 月～2016 年 12 月）

麻酔法	症例数
全身麻酔（吸入）	148 例
全身麻酔（TIVA）	720 例
全身麻酔（吸入）+硬・脊・伝麻	65 例
全身麻酔（TIVA）+硬・脊・伝麻	273 例
脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔（CSEA）	35 例
硬膜外麻酔	5 例
脊髄くも膜下麻酔	13 例
伝達麻酔	0 例
その他	29 例
合　計	1,288 例

＜学会認定施設＞

日本麻酔科学会認定麻酔科認定病院

救 急 科

救急科長　片山 貴晶

＜診療科紹介＞

救急医療科では加藤博孝院長、中村紳副院長、および片山貴晶救急医療科長を指導医として、二年次研修医及び一年次研修医とともに、診療時間内に救急外来を受診された患者様の診療を担当しております。

＜診療実績＞（平成 28 年度）

2016 年の手術件数：2,194 件	麻酔科管理症例数 1,338 例
2015 年の手術件数：2,074 件	麻酔科管理症例数 1,269 例
2016 年の救急車･ドクターヘリによる患者収容件数：2,493 件	
2016 年の救急外来での心肺停止症例の治療実績：85 人	

＜学会認定施設＞

日本救急医学会救急科専門医指定施設

日本ＤＭＡＴ指定施設

神経内科

神経内科長　川守田　厚

＜特徴＞

岩手県南、宮城県北で救急の神経疾患に対応している神経内科は当院以外ありません。そのため当科の入院患者の大部分は、脳血管障害、けいれん、意識障害などの救急患者が占めています。その一方で、ギランバレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症などの疾患について、免疫グロブリン大量療法(IVIg)など専門性の高い治療を行っております。

＜対象となる疾患＞

脳血管障害、変性疾患（パーキンソン病、アルツハイマー型認知症など）、発作性疾患（偏頭痛、てんかんなど）、筋疾患、末梢神経疾患、中枢性感染症　など

＜診療内容＞

ＭＲＩ、脳血管造影検査、筋生検、筋電図、神経伝導速度　など

＜施設認定＞

日本神経学会准教育関連病院

＜診療実績＞（平成 28 年度）

区分			人数・件数
患者	入院（延べ）		6,045　人
		退院	409　人
	外来		4,693　人
	新患		459　人
検査・治療	t-ＰＡ		6　件
	ボトックス		27　件
	ＭＲＩ		1,170　件
	ＣＴ		1,167　件

看護科総括

総看護師長　小田島 淳子

1　看護科概要

（1）看護科理念

「患者さんを尊重し、思いやりのある看護に最善をつくします。」

（2）入院基本料

一般病棟：７対１入院基本料

５ 病 棟：緩和ケア入院基本料

（3）看護体制

看護単位および病床数：８看護単位 315 床（結核病床 10 床）

看護職員数４月稼働 305 名（臨時、時間制職員、看護補助者含む。新人看護師 13 名）

看護提供方式：固定チームナーシング・ペア制、プライマリーナーシング（緩和ケア病棟）

（4）① 認定看護師・各種資格等:がん専門看護師１名、認定看護師 13 名

感染管理（２名）、糖尿病看護、皮膚排泄ケア（２名）、救急看護、がん性疼痛看護、手術室看護、緩和ケア（２名）、乳がん看護、がん化学療法看護、新生児集中ケア

② 各種専門分野からの認定：アドバンス助産師 12 名、医療メディエーター７名、医療安全研修（40 時間終了者）９名、臨地実習指導者講習会修了者 30 名、看護研究指導者養成研修修了者 11 名、認定看護管理者ファーストレベル 40 名、セカンドレベル 10 名

③ 体制の強化：教育専従１名、退院支援看護師専従１名、専任３名、看護事務補助１名

（5）看護研究院外発表：23 題、雑誌投稿：救急、医療安全、全国パス学会最優秀賞論文

（6）看護師等学生の受け入れ：岩手県立一関高等看護学院、一関医師会附属准看護高等専修学校・看護専門学校、東亜学院通信教育課程、岩手看護短期大学、岩手県立大学助産学部、岩手医科大学緩和ケア認定看護師教育課程

（7）ふれあい体験・職場体験・サマーセミナー：体験者 72 名、６回開催

（8）看護の魅力発信活動：一関高等看護学校、一関第二高等学校、一関高等学校付属中学校、医療局就職説明会、新採用者説明会、一関看護介護職員ワークショップ

（9）地域連携等の活動：出前講座７回、施設訪問 27 施設、両磐圏域教育研担当者情報交換会、両磐地区県立病院退院支援担当者会議等

(10) 熊本県の大震災、台風による内陸沿岸地域の災害支援活動：延べ 11 日間、看護師 16 人

2　平成 28 年度活動とその成果

重点取り組み事項は、「看護のたすきでつなぐ笑顔」をキーワードに　①院内外の関連職種と連携した継続看護の実践、②安全安心な看護の提供、③働きがいのある職場環境づくりとしＢＳＣの４つの視点から事業計画を策定し活動した。

【顧客の視点】

・　岩手県立病院患者満足度調査（磐井看護科）では、基本的な接し方は不満・やや不満が 2.5%以下（目標値 4.9%以下)、満足・やや満足では、74.5%（目標値 66.4%以上）であった。患者中心の医療に向け、褥瘡・ＮＳＴ・ＲＳＴ・緩和ケアチームとの連携や患者カンファレンス・倫理カンファレンス、退院支援カンファレンスなど各種カンファレンスを実施した。接遇出前

研修会、標語の作成、言葉づかいや基本的な接し方についてのロールプレイ等実施した結果、当院看護科退院時アンケートでは、感謝 383 件となり感謝や励ましの言葉が看護師自身のやりがいや達成感につながった。ご意見・提言については、他部門も含めた取り組みを行ったことで療養環境の改善となった。

- 認知症ケアは、昨年取り組んだユマニチュードの学びを受け、補佐会が中心となり認知症ケアマニュアル作成、標準看護計画を見直した。南部地区看護師研修では、ＴＶ配信システムを活用し６病院から事例報告会を行い、実践からの学びを深めた。
- 病院機能に応じた各分野の専門・認定看護師の院内外活動は、看護の質向上に結びついた。
- 在宅復帰支援に難渋する中、在宅で過ごしたいという願いに添うよう退院支援体制を強化した。入院時からケアマネジャーとの連携を図り退院後の生活を考えた支援を行った。新たに退院前訪問、退院後訪問を開始したことは、患者の安心につながり、急性期病院での看護を見直す機会となった。
- 「お母さん・赤ちゃんに優しい病院」を目指し、母乳育児推進委員会を立ち上げ関連職種が一丸となって活動。ＢＦＨ認定に向け母乳育児の 10 か条に取り組んだことは次年度につなぐ礎となった。

【財務の視点】

- 一般病棟入院基本料７：１維持のため部署間の応援や他病院からの業務応援で取得できた。重症度医療・看護必要度の内容が大幅に見直された中、精度監査を医事課とともに行い上位取得ができた。７月から退院支援加算１、退院前・退院後訪問、認知症ケア加算２取得。救急トリアージ加算など経営に参画した。

【内部プロセスの視点】

- 薬剤関連インシデント、患者誤認防止、５Ｓ活動の徹底に向けて４グループで活動した。転倒転落防止は、ナースコール対応時間のデータから看護補助者による見守りラウンド実施し昨年度比減となった。感染対策は、新たに擦式アルコール製剤を携帯し手指衛生の徹底を行った。ＩＣＴチェック表 a 項目の割合は、94.2%で昨年度比 1.4 ポイント増。ＩＣＴチームと共にラウンド回数を増やしリンクナースの視点が育った。
- 看護援助が特に必要な時間帯を考慮し全部署で時差出勤を導入。夜勤専従看護師、看護補助者の夜勤導入、ペア制の推進、応援体制、看護事務補助者の導入など業務改善を行った。また勤務環境改善、イクボス宣言、ハラスメント対策に取り組んだ。
- 超過勤務時間は、前年度比増となった。要因は、急性期医療の中で認知症・高齢者のケアや見守り、短時間制職員サポート、看護記録などであり課題が残る。

【学習と成長の視点】

- 教育プログラムに基づき、新人教育、各ステップ研修を実施。ラダー評価は、Ｂ評価以上 98%で目標達成。両磐圏域教育担当者情報交換会を立ち上げ、圏域内での教育を推進した。e-ラーニングを導入し各ステップの研修や部署研修、看護補助者の研修に活用。臨地実習では、出来事リフレクションを導入し学院教員と指導の在り方を検討した。学生の満足度は、94%と高い結果となった。ＩＰＥ研修は、今後につなげていきたい。

外 来

看護師長補佐　杉澤 祐子

1　概要

標榜診療科　：　21

スタッフ数　：　看護職員 61 名（看護補助者８名含）

夜 勤 体 制　：　16 夜勤　当直

2　一日平均患者数　：　492

3　活動目標の取り組みと結果

外来看護目標

① 多職種と連携し、患者家族に寄り添った看護実践

② 安全な看護の提供

③ 働きがいのある職場作り

【顧客の視点】

（１）検査や入院時の説明時自己紹介し、患者・家族に分かりやすい言葉と声かけを心がけた。

（２）ストーマ外来では全症例カンファレンス実施、患者や家族指導の他に、地域のケアマネージャーや入所施設・訪問看護とのケア方法連携を図るため、写真添付した看護情報提供を行い質向上に努めた。

（３）ふれあいポストからの御提言を大切に、カンファランスを実施、スタッフで共有し、改善に努めた。

（４）広報誌「和・いわい」への掲載実施、地域へ磐井病院外来の広報活動を行った。また保健センターなど地域との連携を図った。

【財務の視点】

各種算定件数は下表参照

算定項目	件数	算定項目	件数
ストーマ処置料	478	外来迅速検体検査管理加算	100,690
外来化学療法	2,163	リンパマッサージ施術件数（保険適用外）	151
がん性疼痛緩和指導管理料	400	癌患者指導管理料Ⅰ	174
在宅療養指導料	419	癌患者指導管理料Ⅱ	3
在宅自己導尿指導管理料	197	癌患者指導管理料Ⅲ	257

【内部プロセスの視点】

（１）病棟へ 233 時間の業務応援ができた。主任が中心となり毎日業務調整を行い、外来間や病棟への業務応援に取り組んでいる。

（２）インシデント 54 件（昨年度 46 件）、

（３）レベル３a 以上０件

セーフティ委員を中心に、カンファランスの実施、インシデントの共有を図り再発の防止に努めた。

（４）内視鏡室でのタイムアウトの取り組みを全事例に実施（今年度 437 件）、静脈麻酔使用し

た治療時に医師とともに連携して導入件数を増やし安全対策を実施し定着している。

【学習と成長の視点】

（1）キャリア開発研修はステップ１を２名、ステップ２を１名、ステップ３を２名、ステップ４を２名が取り組み終了した。

（2）看護研究活動として、28 年度学会発表件数は７題であった。

東北救急医学会１題
日本医療マネジメント学会東北連合会学術集会１題
岩手県立病院看護研究学会１題
日本救急看護学会１題
岩手県消化器内視鏡技術研究会１題
日本クリニカルパス学会学術集会１題
日本褥瘡学術集会１題

外来運動会

救急外来

主任看護師　佐藤 加代子

1　概要

救急外来スタッフ体制

	医師	看護師	薬剤科	放射線科	検査科	事務	ニチイ
平日日勤	各科オンコール	１名					２名
休日日直	医師　２名 初期研修医　１名	日直３名 遅出対応	１名	１名	１名	１名	日直 ２名
夜間当直	半当直（4ｈ）１名 当　直　２名	当直１名 夜勤２名				１名	当直 1.5 名

2　平成 28 年度救急受診患者数（平成 28 年４月～平成 29 年３月）

救急外来患者総数	12,275 名	（平日：1,728 名、休日：2,767 名、夜間：7,780 名）
入院患者数	3,096 名	（うち、救急車で来院し入院した患者数：1,466 名）
救急外来からの入院率	25.2%	（うち、救急車来院からの入院率 58.9%）
救急車受け入れ台数	2,488 名	（応需率 83～84%）
ドクターヘリ受入数	5 名	（外傷 3 件、脳卒中 2 件）
来院時心肺停止患者	85 名	
トリアージ加算件数	4,641 件	

3　現状と活動状況

「救急外来患者総数」「救急車受入れ」は昨年より１割ほど減少したが、「救急外来からの入院率」は増加している。仮設救急での対応中は救急車の応需率も減少したが、入院を必要とする重症患者や緊急度の高い患者を優先に受け入れていた。

また、前年度にひき続き集団災害発生時初期対応訓練を開催し、初動体制について災害本部立ち上げから救急受け入れ準備までをマニュアルに準じて確認することが出来た。

着工していた救急外来の拡張工事も完了し３月より稼働している。初療スペースは導線良く動けるように拡張され、プライバシー保護の配慮も出来るようになった。重症外傷や救急疾患の処置を行うための重症室も設置された。救急待合室は廊下から独立したスペースを確保し、暖かい環境でお待ちいただけるようになった。さらに、トリアージ室を新設し緊急度の高い患者を見落とすことがないよう、院内トリアージの充実にも取り組んでいる。

独居高齢者や若年性重症患者も年々増加傾向にある。救急外来を受診する患者の病態だけでなく、社会支援や福祉支援を必要とする生活状況も含め必要な看護ケアを提供できる救急環境の整備に努めていきたい。

手術室・中央材料室

看護師長　三浦 実千代

１　概要

（１）手術診療科

外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、歯科口腔外科、皮膚科、眼科、麻酔科、救急科

手術室数：　７室

看護師数：18 名（看護補助者１名含）

（２）中央材料室：スタッフ　４名（委託業者）

２　手術件数：2,169 件

麻酔科依頼手術：1,329 件

３　平成 28 年度活動目標の取り組み

手術室看護目標　「患者ひとりひとりを大切にする、安全であたたかい看護の提供」

【顧客の視点】

（１）術前訪問を実施し手術室の紹介や麻酔導入、体位、褥瘡予報対策ケア等の説明をすることで受け持ち看護師の役割を遂行し術前の不安軽減に努めた。必要に応じて術中のリスクについての説明を行い同意を得た。術後は、何らかの障害があった場合や、術前から気になる患者への訪問を行った。

（２）麻酔科、ＡＵ-Ｂと連携し手術当日入院患者の外来術前訪問の実施。

（３）神経障害・褥瘡予防の観察のポイントを可視化できるよう、リマークスを修正し術中ケアの統一に繋げた。

【財務の視点】

（１）適正な診療材料管理を目的に、ＳＰＤと連携し定数変更や不動在庫調査をおこない、材料

管理ができた。請求シールの貼り忘れ件数の把握とフィードバック、ゴミ処理時のダブルチェックにより減耗対策に努めた。

（２）薬剤の減耗防止にも努めたが、前年度より増加した。今後も注意喚起と医師との協力体制を整えていく。

【内部プロセスの視点】

（１）患者誤認防止、体内遺残防止、誤薬など、５Ｒの周知と新たにサインイン・サインアウト導入を図り医療事故防止に努めた。

（２）手術室独自の災害訓練を実施。今後も年間行事として組み入れていく。

（３）中央材料室と連携し、手術器械のトレーサビリティー記録を試験的に開始し滅菌物の質保証に繋げた。

【学習と成長の視点】

（１）手術看護認定看護師による、手術室スタッフへの学習会と実技指導実施

（２）麻酔科医師、新規器械等の学習会の開催

（３）プリセプターシップにて新人看護師や復職者への指導を実施。

緊急手術の待機はベテラン看護師と組み合わせるなどしながら業務に支障がないように調整した。

２ 病 棟

看護師長　昆 千宜

１　概要

診療科：外科、歯科口腔外科、救急科、放射線科

病床数：51 床、スタッフ数：31 名、看護補助者４名、夜勤体制４：３（土日３：３）

２　病床利用率：71.1％　平均在院日数：11.9 日

３　病棟看護目標

（１）周手術期患者、救急患者に対し専門性を発揮した医療、看護の提供

（２）他職種でカンファレンスを定期的に開催し、患者と家族の健康な生活回復の支援

【顧客の視点】

（１）患者カンファレンス・多職種カンファレンス・医師とのカンファレンスの定着を図った。

（２）退院支援カンファレンスは 485 件。開催方法を検討し内容の充実を図った。また退院支援多職種カンファレンスは 51 件開催し地域との連携を図った

（３）リンパ浮腫外来連携８件 算定もれなし

（４）褥瘡新規発生３件 褥瘡発生率 0.03%。褥瘡持込み 11 件、治癒率 45% 。褥瘡カンファレンスの開催やＷＯＣＮとの連携により褥瘡の治癒、発生の予防に努めた。

【財務の視点】

（１）チェックリストを作成し看護用品の適切な管理に努めた。

（２）重症度、医療・看護必要度はスタッフ同士で監査し精度を高めるよう取り組んだ。

【内部プロセスの視点】

（1）インシデント 116 件を共有し再発防止に向けて取り組んだ。転倒転落率は 1.89‰ 。ベットマップで離床センサー使用者、ドレーン挿入患者、眠剤内服患者を共有し事故防止に努めた。レベル３a 以上の転倒転落発生率 0.15‰ 。
（2）リーダー役割を担うスタッフによるリーダー会を開催しリーダーの育成を支援した。
【学習と成長の視点】
（1）資格取得者を支援(ストーマサイトマーキング２名、臨床指導者講習１名)
（2）院内研修は新人（２名)、ステップ１（４名)、ステップ２（１名)、ステップ４（１名）受講。
（3）学会発表３題（全国自治体病院学会、日本倫理学会、東北ストーマリハビリテーション研究会)

3 東病棟

看護師長補佐　佐藤 由美

1　概要
診療科：脳神経外科、整形外科、泌尿器科、皮膚科
病床数：60 床、スタッフ数：看護師 29 名、看護補助者５名、夜勤体制：４：３
2　入院患者数等
入院患者総数：17,103 人、１日平均入院患者数：46.9 人、病床利用率：78.1%、平均在院日数：12.5 日
3　活動目標への取り組み
重点項目
① 他職種と連携し、患者・家族に寄り添った看護実践
② 安全な看護の提供
③ 働きがいのある職場つくり
【顧客の視点】
（1）患者アンケートの提言を元に、カンファレンスや基本的な接し方の研修会を実施し､各自が自己を振り返る等改善を図った。退院時アンケートでは感謝が増加した。
（2）整形外科、脳外科のクリニカルパスを作成し適応率がアップした。
【財務の視点】
（1）重症室管理加算は、オペレーターと協力し適切に算定されていることを毎月確認し実施できている。
（2）退院調整カンファレンスは受持ち看護師が中心となり２回/週の実施が定着した。
【内部プロセスの視点】
（1）委員と係が中心となりインシデント事例の共有を図っている。改善策が周知されているか２～３週間で確認を行うことにした。その結果、改善策の見直しができ、再度周知することでインシデントの再発防止につながった。
（2）病棟全体でペア制を検討し、実施した。安心・安全に看護ケアを提供するために１チーム

制に取り組み、チームメンバーの相互支援体制を強化した。複数科を体験することで人材育成できた。

（３）病棟看護補助者人員減に伴う対策として、深夜勤務者を日勤にシフトさせ、日勤者数の確保と充実を図った。

【学習と成長の視点】

（１）ステップ研修受講２名（ステップⅡ　１名、ステップⅢ　１名）

（２）１人１回院外研修会参加を目標に自己研鑽に努めている。

３西病棟

看護師長補佐　菊池 宏美

１　概要

診療科：産婦人科、小児科、新生児科、眼科、女性慢性期

病床数：60 床、夜勤体制：４：３、スタッフ数：看護職員 32 名、看護補助者３名

２　入院患者総数 2,370 人（延数 15,759 人）、病床利用率 72.2%、平均在院日数 6.5 日、一日平均患者数 46 人、年間分娩件数 675 件、帝王切開率 31.0%、助産外来 311 件、母親学級開催 67 回（参加 941 名）

３　病棟目標

（１）地域周産期母子医療センターとしての救急受け入れ体制の整備

（２）地域との連携を図り、母子とその家族への専門的な診療と看護の提供

（３）小児救急の受け入れ体制の整備

（４）成長発達を踏まえた、小児とその家族への専門的な診療と看護の提供

【顧客の視点】

（１）地域と連携した患者満足度の向上

受け持ち看護師制の充実のため、朝夕の挨拶・当日翌日の予定確認を徹底。退院時アンケート内容の問題点をあげ倫理カンファレンスを定期的に開催した。また内容を共有し、関わりを重視したケアを実践した。

（２）専門性の高い看護の提供

① 周産期ケアの充実として産褥期の助産外来受診の推進を継続、昨年度より受診者数は増加した。また、BFH 認定に向けた取り組みとして、他部署への出張勉強会を実施、外部講師を招いて研修会を実施し職員の周知に努めた。分娩後 30 分以内の授乳率は 76%と前年度より 10%増加した。今年度より新たに BFH 通信を 11 回発行し、母乳育児推進に努めた。

② 帝王切開時の新生児科スタッフの立ち会いを行い、出生直後からの新生児蘇生の充実に努めた。また、新生児ケアの充実として出生前訪問、ファミリーケア、ディベロップメンタルケアを実施した。

③ 小児ケアの充実として、昨年度作成した転倒転落を注意喚起するＤＶＤを活用し、ベッドからの転落への注意を促した。また、乳児健診（６～７ヶ月、１歳）時の栄養相談を実施し継続看護に努めている。

④ アドバンス助産師に申請し合格者５名（合計 10 名）、NCPR 取得者（新規、更新者含めて）76.7％

（３）クリニカルパスの推進　新規作成件数２件、適応率 93.5％

【財務の視点】

（１）小児環境加算定数 291 件、産科ハイリスク加算算定 1,694 件、褥瘡発生率 0.01％ 。

（２）ＳＰＤバーコードの取り忘れ防止、薬品減耗　２件

【内部プロセスの視点】

（１）医療安全対策として声だし・指さしを推進し、５Ｒの周知徹底に努めた。インシデントを共有し対策後の評価を実施し、再発防止に努めた。転倒転落率　0.38‰　（レベル 3a 以上の転倒転落０件）

（２）働きがいのある職場作りとしてチーム間の応援、他病棟応援を業務調整シートを用いて実施した。また、時差出勤を実施し業務を円滑に行うことができるよう努めた。また、1 分間スピーチを全員に実施した。

【学習と成長の視点】

看護研究：母性衛生学会　発表１題
医療マネジメント学会学術集会　発表１題
日本新生児看護学会学術集会　発表１題
母乳哺育学会　発表１題
母乳育児シンポジウム　発表１題

４東病棟

看護師長　岩本 礼子

１　概要

診療科：神経内科、循環器科、形成外科、救急医療科

病床数：60 床、スタッフ数：看護師 30 人、看護補助者４人、夜勤体制：４：３（土日３：３）

２　入院患者総数：14,102 人　平均在院日数：11.8 日

３　活動目標の取り組み

病棟看護目標

「専門的知識と技術をもって最善の看護を提供し、患者・家族が安心して退院できる」

【顧客の視点】

（１）患者満足度の向上

患者・家族の意向に沿った退院支援の実施

（２）看護の専門性発揮

① 日中の離床と活動の促進として、端坐位での清拭、端坐位または車椅子での食事摂取の援助を病棟全体で取り組み実施している。アンケートで看護師の意識変化について昨年度と比較したところ今年のほうが有意に看護師の意識が向上していた（P＜0.05）。

② 疾患・看護に関する病棟内勉強会の開催と理解度テストの実施

８回開催し、その後に小テストを行ない理解度について確認した。（テスト正解率 100%）

③ 褥瘡対策の充実

新規褥瘡発生率 0.04%（目標値 0.07%以下）

医療機器関連圧迫創０件（目標 昨年度比減）

【財務の視点】

薬剤減耗８件 5,109 円（前年度 16 件 8,988 円　3,879 円減）

薬剤減耗においては、ミキシング後の指示変更が４件あり、医師とも共有を図ることとした。また、ミキシング時のＰＤＡを使用せず減耗となったものもあり、再度ミキシング手順を確認し対策を行なっている。

【内部プロセスの視点】

（１）安全・安心な療養環境の整備

① 食事介助チェックリストを作成し、患者の安全な食事介助に取り組んでいる。

患者の食事摂取状況に応じて、介助方法を統一し対応することにより食事中の転倒や誤嚥等のインシデントは０件であった。

② 転倒・転落件数 23 件（前年度 38 件 15 件減少）

転倒・転落防止対策として、センサー使用患者を看護補助者と共有し迅速なコール対応や患者の見守りを行なうことにより転倒・転落防止に繋がっている。

（２）職務満足度の向上

① ペア制や時差出勤の業務内容をチームリーダーが中心に話し合いを重ね検討した。夜勤帯での食事介助による超過勤務があり、日勤看護師が食事介助を行う等により業務負担の軽減に繋がった。

② 薬剤科との連携により、退院前の薬剤師による退院指導が 455 件（前年度より 218 件増）となった。

③ 妊婦に対していつでも体調に合わせて休息できるように、面談室を開放した。

【学習と成長の視点】

人材育成の推進

院内ステップ研修Ⅲ　１名、ステップ研修Ⅳ　２名修了

各クリニカルラダーの「人間関係能力」Ｂ以上の他者評価の割合が 97%であった。

看護研究院外発表演題　２題（岩手看護学会・クリニカルパス学会）発表。

４西病棟

看護師長補佐　村上 静江

１　概要

診療科：　消化器科・呼吸器科（結核）・救急医療科

病床数：　一般 50 床、結核 10 床

スタッフ数：　看護師 30 名、看護補助者４名

夜勤体制：３：４（土日祝３：３）

２　平成 28 年度入院患者総数：1,627 名、一日平均在院患者数：40 名

病床利用率：一般病床 92.2%、結核 4.4%、平均在院日数 9.0 日

３　活動目標の取り組み

病棟目標

（１）医療安全対策を遵守します。

（２）多職種と連携しチーム医療を実践します。

（３）地域と連携し希望を取り入れた退院支援を目指します。

【顧客の視点】

（１）多職種カンファレンスは、医師、薬剤科、栄養科、退院支援など関連部門の参加を呼びかけ消化器科 21 件実施。病状や治療方針が共有でき退院支援にもつなげることができた。次年度は呼吸器科、救急科でも実施したい。

（２）患者・家族の意向に沿った退院支援として、退院支援カンファレンス 462 件実施。

【財務の視点】

（１）重症度、医療、看護必要度のＣ項目（救命等に係わる内科的治療：経皮的血管内治療、侵襲的な消化器治療）の対象者については、重症室での重症管理を行った。

（２）退院支援計画書加算 309 件、介護支援指導書算定 45 件。

（３）ＳＰＤ棚の配置換え、不動在庫の見直しを行い材料減耗防止と感染防止に努めた。

【内部プロセスの視点】

（１）インシデント事例についてカンファレンスで改善策を話し合い、マニュアルの読み合わせ、５Ｒでの確認を徹底し取り組んだ。今後は改善策が継続実践できているか確認と意識付けのために振り返りを行い、看護の質の向上を目指す。

（２）ワークライフバランスの推進として、マザー時間（看護補助者）、育児時の部分休、特別休暇（子の看護、親の介護、病休、命日の忌引き）など取得できた。

（３）超過勤務時間の縮減として、電子カルテ「お気に入り」に 25 種類の定型文を作成し記録時間の短縮に向けて取り組んだ。

【学習と成長の視点】

（１）ステップ１研修：２名終了（細川 智子、菅原 愛）

（２）看護研究：岩手県看護研究学会１題

「ＯＡＧを活用した評価と口腔カンファレンスの実施」小野寺 麻衣子

５病棟（緩和ケア）

看護師長補佐　伊藤 美和

１　概要

診療科：緩和医療科

病床数：24 床、スタッフ数：看護職員 17 名、夜勤体制：２：２

２　平成 28 年度入院（入棟）患者数：165 名、１日平均入院患者数：15.5 名、病床利用率：64%、平均在院日数：31.7 日

３　平成 28 年度活動目標の取り組み

病棟看護目標

「患者さんの身体や心のつらさを和らげ、患者さん・ご家族の意思を大切にして【その人らしく】穏やかな毎日を過ごすことをめざします」

【顧客の視点】

（１）多職種カンファレンスを２回/月開催した。トータルペインの視点で問題を共有しながらケアを検討できた。

（２）11 月に､当院２回目の偲ぶ会を開催し 76 名の遺族の参加があった。次回の参加希望が 93%あり、次年度も開催予定である。

（３）ボランティアと協働しティータイム２回/月、季節の行事を開催し、54 名の患者さんと 38 名の家族の参加があつた。グリーフレター発送 94 件、入院患者の誕生日会 10 件、ペットとの面会支援３件行った。

【財務の視点】

（１）無料個室利用の公平性を推進し入棟 60 日経過後は有料個室を利用していただくことで、特室利用率は　49%となった。

（２）緩和ケア病棟の啓蒙活動として、10 月緩和ケア週間に合わせ、緩和ケア病棟市民見学会を行い 16 名の参加があった。

（３）リレーフォーライフへの参加、ＩＺＡＫへの参加、緩和ケアにおける地域連携についてディスカッションできた。

【内部プロセスの視点】

医療安全対策として転倒転落カンファレンスや、インシデント分析と改善策の共有、指さし呼称の唱和、ＫＹＴ、配薬カートの点検等を行った。レベル３a の転倒転落は２件、レベル３a の誤薬０件であった。

【学習と成長の視点】

岩手医科大学付属病院高度看護研修センター　認定看護師教育課程　緩和ケア分野の臨地実習で１名研修生を受け入れた。日本死の臨床年次大会で１題演題を発表した。ELNEC-J を２名受講した。

内視鏡室

主任看護師　佐藤 光恵

1　概要

医　　師：消化器内科医７名、東北大学より２名　２日/週

スタッフ：看護師６名（うち内視鏡技師有資格者２名）

看護補助者１名、医療クラーク１名

検査室数：上部内視鏡室２室、下部内視鏡室（透視可）１室、上部透視検査室（ＥＲＣＰ、各種ステント、ＭＤＬ、ＤＤＬ対応）

内視鏡室スタッフ体制

区　分	医　師	スタッフ
平　日　勤　務	内視鏡担当医（消化器）　３名	看　護　師　４～５名 看護補助者　１名 医療クラーク　１名
休日・夜間 呼び出し体制	消化器当番医　１～２名	緊急内視鏡待機対応　看護師　１名

2　平成 28 年度内視鏡検査数

全検査数：5,152 件（消化管止血術：緊急呼び出し対応含む）

検査名	ＧＩＦ	ＣＦ	消化管止血術	胃ＥＳＤ	大腸ＥＳＤ	大腸ポリープ切除術	ＥＲＣＰ含む採石・ドレナージ治療
件数	2,702 件	1,369 件	133 件	51 件	35 件	388 件	204 件

3　現状と活動状況

内視鏡室では検診後の精査から内視鏡による治療まで、内視鏡専門医をはじめとした消化器内科医師７名、看護師６名（うち内視鏡技師２名）・看護補助者・医療クラークで検査・治療に対応しています。消化器内視鏡治療においては、消化管出血に対する止血術はもちろんのこと、早期癌の内視鏡的粘膜剥離術や切除術、膵・胆管系の治療などを実施しています。内視鏡検査は患者さんの不安や苦痛を伴うこともあるため、待合室に検査用のパンフレットやポスターなどを掲示し情報提供をしています。また患者さんに寄り添える看護を目指し、入院治療に対し術前訪問・術後訪問を実施しています。更に病棟看護師や医師と情報共有するためサインイン・タイムアウト・サインアウトを導入し、安全な治療やケアの提供に努めています。緊急内視鏡にも 24 時間対応出来る体制で、患者さんや御家族の方が安心して安全に検査・治療が受けられるようスタッフ全員で取り組んでいます。

外来化学療法室

がん化学療法看護認定看護師　道上 美貴

1　概要

【スタッフ紹介】

看護師４名（がん化学療法看護認定看護師１名）

【主な対象疾患】

胃癌、食道癌、直腸癌、結腸癌、胆嚢癌、胆管癌、膵癌、乳癌、膀胱癌、尿管癌、腎癌、前立腺癌、卵巣癌、子宮体癌、子宮頸癌、クローン病、潰瘍性大腸炎、肺癌、悪性中皮腫

2　平成 28 年度の実績

年間利用者　延人数　1,950 名（平成 29 年２月末）

	外科	消化器科	呼吸器科	婦人科	泌尿器科
利用者数（名）	1,249	382	127	111	81

3　活動内容

平成 28 年 10 月に外来化学療法室が新築移転となり、外の景色が見え明るく静かな環境で治療をうけられるようになりました。また、ゆとりあるスペースが確保されたことでプライバシーの確保もできて、患者さんからは静かで広くなってとてもいいと好評です。さらに、さまざまな相談ができるような個室も完備され、ウイッグの展示スペースも新設しました。実際に手に取りながらウイッグの相談をすることもできるようになりました。一関地区の医療用ウイッグのパンフレットも作成し、ウイッグで悩んでいる方へ情報提供に活用しています。脱毛以外の副作用も様々あり、爪の変色や変形などで悩んでいる患者さんへのネイルケア方法や、口腔粘膜炎のケア等の相談も個別でゆっくり対応できるようになりました。

外来化学療法室の隣には薬剤調製室もできたことから薬剤師との連携もしやすくなり、副作用対策のために処方となった薬剤について治療をうけながら薬剤指導できるようにもなりました。

近年のがん化学療法は新薬が多く適応となり、がん腫や治療内容によっては入院から外来で治療するものに変化してきています。また多剤併用療法が多く行われており、治療内容が複雑化しております。患者さんが安心して、安全に、安楽に治療が受けられるように、がん化学療法に携わるスタッフが連携をとりながら、自分達の知識の向上はもちろんのこと、患者さんのセルフケア能力向上のための支援へ活かしていけるようにしていきたいと考えております。

医療安全管理室

医療安全管理専門員　須田 佳与

医療安全管理室は、患者さんに安全で信頼される医療を提供する為に、安全管理体制の整備を行うための役割を担っています。

医療安全管理室の構成は、医療安全管理室長１名と医療安全管理専門員１名、各部門で安全管理を担当しているセーフティマネジメント部員です。

医療安全管理室の業務は以下のとおりです。

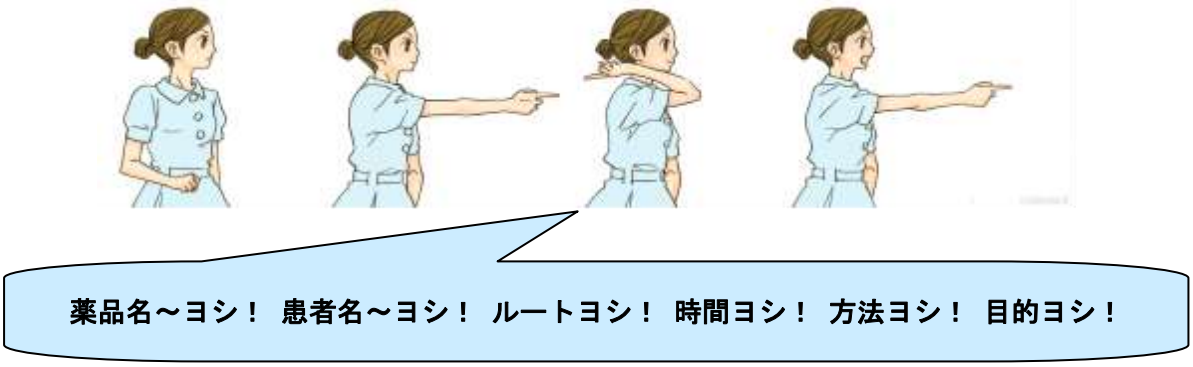
１　医療安全に関する研修の企画立案に関すること。
２　医療安全に関する各種マニュアルの作成、見直しの総括に関すること。
３　医療事故に関する調査、分析、評価及び指導の総括に関すること。
４　医療安全に関わる院内、院外関係機関との連絡調整に関すること。
５　その他医療安全対策の推進に関すること。

医療安全推進活動として医療安全管理のための職員研修会では、全職員の医療安全管理に対する意識を向上させるために研修会を開催しています。平成 28 年度は、医療安全研修会を 11 回開催しました。医療における個人情報の取り扱いについては、医療安全としての情報管理と倫理的配慮について常に意識をもって行動するよう心掛け、全職員が医療安全への啓蒙活動を行っています。

また、病院で働く全ての職員が安全に関する知識を高め、病院のルールを理解し遵守するために、医療安全対策マニュアルを適宜整備し、定期的に医療安全パトロールにて院内巡視を行い、マニュアルの遵守状況等の確認をしています。

平成 28 年度は、医療安全の推進では「患者誤認件数」と「転倒・転落発生率」の低減を目指して取り組みました。発見レベルのレポート報告数を増やし、対策周知の結果として患者影響度の高い事象レベルを減らす取り組みを次年度も継続していきます。

当院のインシデント・アクシデントレポートの要因の多くは、確認不足であることから、「指さし呼称」での確認行動の周知徹底を推奨しています。特に薬剤関連のインシデント・アクシデントレポートが全体の 3 割を占めることから、「指さし呼称」での「患者名」「薬剤名」「用法」「用量」「時間」の『５Ｒ』に加え「目的」も含めた『６Ｒ』で確認することを周知して行っています。今後も医療安全活動に全職員が協力し、組織としての安全醸成が推進できるように努めていきます。



薬 剤 科

薬剤科長　佐山 英明

1　概要

（1）スタッフ

薬剤師 13 名、臨時薬剤助手４名、時間制薬剤助手１名

認定薬剤師

がん薬物療法認定薬剤師　１名

感染制御認定薬剤師　　１名

（2）業務内容

外来入院調剤、注射薬払い出し、がん化学療法支援業務（抗癌剤調製、レジメン監査、患者説明)、病棟薬剤業務、薬剤管理指導業務、医薬品情報提供、薬事委員会事務局、製造販売後調査事務局、院内医薬品の管理、薬品事務、薬学部 5 年生の実務実習指導、看護学院講師（薬理学、生化学)、チーム医療への参加（ＩＣＴ、ＮＳＴ、緩和チーム）等

2　取り組み状況

（1）薬剤管理指導業務は業務シフトの見直しや効率化を図った結果、年間の薬剤管理指導件数 3,645 件で前年度比 30%増、算定外の指導を含めると 45%増となっています。退院時指導件数は 833 件で 38%増、麻薬管理指導 96 件で 35%増となり、入院患者への指導率が当初 25%から 40%近くまで増加しました。（表１）この結果により磐井病院所属長表彰をいただくことができました。

（2）病棟薬剤業務は投薬前に係わる業務で、今年度は初回面談の実施、回診同行、他の医療スタッフとのコミュニケーション等、内容の充実を目標に取り組みましたが十分とは言えない状況であり、次年度も継続して取り組みます。

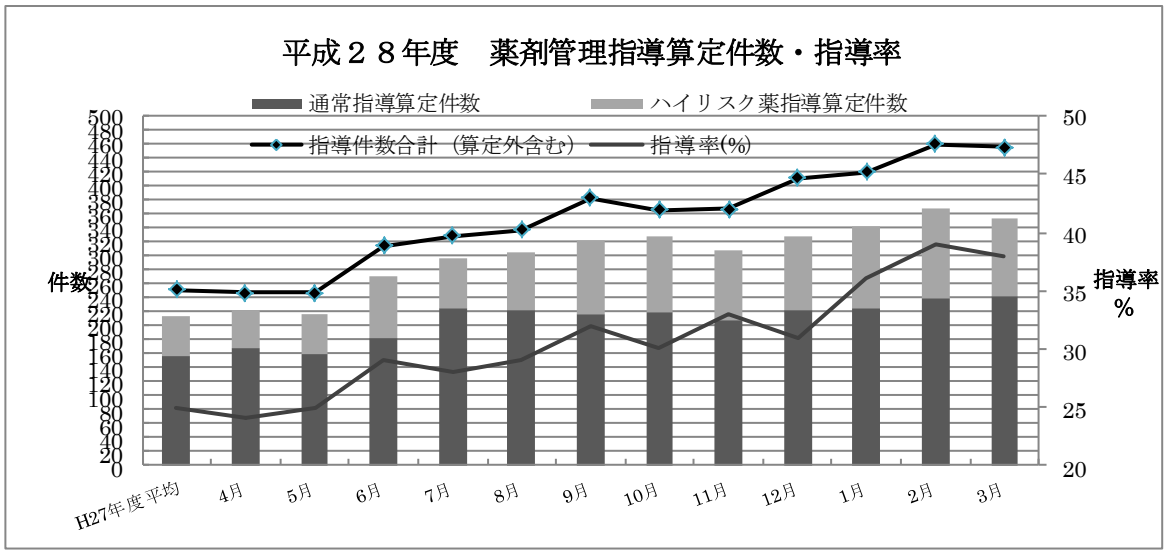
（3）薬剤関連インシデント防止対策への関与では、薬袋の病棟表示色を病棟ごとの色分けに変更し誤認防止策を行った結果、関連するインシデント減少に貢献することができ、医療安全取り組み表彰をいただくことができました。

（4）薬品の効率的使用の取り組みを行った結果、抗がん剤等の後発薬品への切り替え促進、院内にある定数薬の見直し、期限切迫薬品情報提供を行い、薬品費の縮減や薬品減耗費の抑制につながりました。

（5）がん化学療法では、化学療法室移動に伴い安全キャビネットを外部排気型へ変更となり、抗がん剤による被曝汚染防止対策が施され、より安全で安心して調製ができるようになりました。

（6）薬学生長期実務実習は１期（５月９日から７月 23 日）２人、２期（９月５日から 11 月 20 日）３名、３期（１月 10 日から３月 27 日）２名に実施し、将来、岩手県立病院で活躍できる人材育成を目標に取り組んでいます。

表１



３　平成 28 年度 薬剤業務実績

			合計	月平均
調剤実績	処方箋枚数	入　院	36347	3307.9
		入院 計	36347	3307.9
		外　来	9221	836.8
		外来 計	9221	836.8
		合　計	45568	4144.8
	調剤数	入　院	53800	4910.8
		外　来	23351	2116.8
		合　計	77151	7027.6
IVH調製		実績件数	34	2.8
		患者数	8	0.7
通常薬無菌製剤処理料（４０点）		算定件数	6	0.5
入院抗癌剤無菌調製		件　数	281	23.4
外来化学療法加算件数			2158	179.8
外来化学療法加算Ａ（１５歳以上　６００点）			2105	175.4
外来化学療法加算Ｂ（１５歳以上　４５０点）			53	4.4
閉鎖式機器抗癌剤処理加算（１８０点）			2106	175.5
抗悪性腫瘍処方管理加算（７０点）			2067	172.3
手帳加算（３点）			424	35.3
薬剤管理指導料	算定	３２５点	2509	209.1
		３８０点	1136	94.7
		麻薬加算件数	96	8.0
		退院時薬剤情報管理加算算定件数	833	69.4
病棟薬剤業務実施加算			798	66.5
薬剤情報提供			8067	672.3
薬品鑑別件数			5465	455.4
薬品再調剤件数			327	27.3

写真１　実習生とスタッフ

写真２　抗癌剤の調製

放射線技術科

診療放射線技師長　勝田 元

１　部門の紹介・概要

放射線技術科は、Ｘ線撮影・ＣＴ・ＭＲＩ・核医学検査・放射線治療を担当する部門です。高い安全性を確保し、患者中心のチ-ム医療に貢献することを常に心がけ、医療放射線被ばくの低減、放射線機器の精度管理、専門知識の向上に努めています。診療放射線技師 15 名（女性４名）と補助員２名で、画像診断科・放射線治療科と連携を取りながら業務を行っています。

２　主な出来事・取組み

（１）マンモグラフィ装置の更新

１月 17 日、県立病院初となるトモシンセシス（Tomosynthesis 断層+合成）を搭載したデジタルマンモグラフィシステム【写真】を導入しました。乳腺構造の重なりによる発見が難しかった病変の観察を容易にし、低線量で高精細な画像が提供できるため、乳がんの早期発見に貢献できると考えています。また、今回の更新に伴い読影環境も整え、専用ビューアによるモニター診断としました。フイルムレスにより検査時間と待ち時間の短縮に繋がっています。

マンモグラフィ検査は特別な配慮が必要な検査であることから、被検者の要望に応えるため、可能な限り女性技師による検査を行ってきました。平成２８年度は受検者の全員を女性技師が検査を実施しています。担当の女性技師は全員マンモグラフィ撮影認定技師です。

マンモグラフィの実施状況

年 度	受検者数	女性撮影	%
平成26年度	894 件	822 件	92%
平成27年度	889 件	825 件	93%
平成28年度	915 件	915 件	100%

（２）塩化ストロンチウム－８９治療が可能となる

有痛性骨転移の疼痛緩和を目的とした塩化ストロンチウム-89 治療が２月 22 日より可能となりました。担当の放射線治療科長と診療放射線技師３名が「有痛性骨転移の疼痛緩和における塩化ストロンチウム-89 治療安全取扱講習会」を受講しています。

（３）ＭＲＩ装置の更新

既存のＭＲＩ装置は導入から 11 年経過し更新時期となりました。更新工事により長期に渡りＭＲＩ検査を中断することは、診療科及び救急業務に多大な迷惑を掛けるだけでなく、基幹病院としての信頼を損なうことにも繋がりかねません。そこで、使用していない撮影室を改修し、新たにＭＲＩ室を作り、既存の装置を稼働させながら更新することにしました。装置搬入、機器調整を経て３月１日より新装置が稼働しています。導入した最新のＭＲＩ装置は高速撮影、体動補正、非造影検査が充実しており、マグネットが短く開口径が広いため被検者の不安を軽減し、さらに静音技術を採用することで、検査効率と検査環境が格段に向上しています。

医療安全研修会で「ＭＲＩの安全性について」と題して技師の高橋直也が講演しました。ＭＲＩは撮影していない時でも強い磁場が発生しており、あるところから急激な磁力を受けます。電磁波による体温上昇があり、ヒートテックなどの機能性肌着を着ていると、誘導電流による火傷が起こりやすくなります。また、ＭＲＩ室に大きな強磁性体を持ち込むと、患者さんやスタッフを危険にさらすだけでなく、検査の停止や磁場の再立上で病院に大きな損失をもたらすなど、安全確認の重要性や検査の注意点など分かりやすく解説し、好評を得ました。

３　業務実績

平成 28 年４月１日から平成 29 年３月３１日までの主な業務の件数は下表の通りです。

部 門	業務項目	件 数	主な機器
画 像 診 断	一般撮影	26,059 件	FUJIFILM DR システム CALNEO（３室）
	回診撮影	6,368 件	島津 Mobile Art（２台）・ 日立 ｼﾘｳｽ
	乳房撮影	915 件	FUJIFILM AMULET Innovality
	透視検査	1,180 件	Ｘ線テレビ装置（３室）
	ＣＴ検査	12,376 件	SIEMENS SOMATOM Sensation 64 列・ 東芝４列
	画像処理	542 件	ワークステーションによる 3D 画像
	ＭＲＩ検査	3,406 件	SIEMENS MAGNETOM Aera 1.5T
	核医学検査	495 件	東芝 E-CAM
	血管撮影検査	490 件	島津 BRANSIST Safier VC17
	ＣＤ書出し	3,133 件	PACS → CD　画像データ書出し
	ＣＤ取込み	2,242 件	CD → PACS　画像データ取込み
放射線治療	新患者数	168 人	リニアック
	延べ患者数	4,107 人	VARIAN ClLINAC-21EX-OBI
	門　数	15,056 門	

臨床検査技術科

臨床検査技師長　高橋 幹夫

昨年度の自動血液分析装置の更新に引き続き自動生化学分析装置 AU680 と AU5800 が更新され、処理能力 2,000 テスト/時の高スペックの分析装置を稼働することで検体処理速度が速くなり、外来診察の迅速化や救急患者様の病態把握に繋がっています。

輸血検査では血液製剤の一元管理を行っており、交差試験と血液製剤の払い出しを同時実施して迅速な輸血療法に対応しています。細菌検査では、一般細菌検査、血液培養検査、抗酸菌検査などの感染症治療に関わる検査を実施しています。研修医とともに感染症の起因菌をグラム染色や培養で推定し、治療に有効な薬剤を調べる為に薬剤感受性試験を行います。さらには院内感染対策に重要な役割を担っています。病理検査では術中迅速病理診断を行っており、手術時に提出された検体が癌かどうかの診断を実施しています。

生理検査部門では、心電図、超音波検査など患者様の生体検査をおこなっています。他職種を交えた乳腺に関する勉強会を定期的に実施しており、医師、放射線技師と他職種の専門知識を共有しながら情報交換の場として活用しています。

さらに検査に関するパニック値の見直しを行い、報告を徹底する為パニック値報告した症例を把握し、パニック値報告が臨床現場でどのように対応されているか調査を開始して、検査の重要性を再確認し、安心・安全な検査の提供に努めています。

《検体検査部門》

《生理検査部門》

腹部エコー測定

脳波測定

《診療報酬》

リハビリテーション技術科

主任理学療法士　関谷 淳一

1　概要・紹介

職 員 数：理学療法士６名（うち臨時１名）、作業療法士２名（うち臨時１名）、言語聴覚士１名

施設基準：脳血管等リハビリテーション（Ⅱ）、運動器リハビリテーション（Ⅰ）、呼吸器リハビリテーション（Ⅰ）、廃用症候群リハビリテーション（Ⅰ）、がん患者リハビリテーション、摂食機能療法

2　新規取組

（1）診療報酬改定により中止されていた摂食機能療法が７月から再開された。月 30 件未満と実施回数は制限されてはいるが、摂食嚥下障害を呈している患者が多く、今後も質の高い医療を提供していきたい。

（2）退院調整看護師と共に自宅退院患者に対して退院前訪問指導を実施し算定も開始した。家屋改修や導線の変更、家族へのアドバイス等を行い、スムーズな自宅退院への流れが確立されつつあると思われる。

（3）10 月から脳血管疾患・廃用症候群・運動器リハビリテーションを実施している要介護被保険者に指導等を行う目標設定等支援管理料の算定を開始した。算定を行わない場合、１割程度減算される事から主治医の負担増にはなるが作成に協力を得られている。

3　業務実績

（1）診療科別理学療法・作業療法・言語聴覚療法処方件数

	整形外科	脳神経外科	神経内科	呼吸器科	循環器科	消化器科	泌尿器科	外科	形成外科	緩和医療科	小児科・産婦人科	救急科	その他の診療科	合計
理学	354	103	191	15	19	29	16	69	11	14	8	119	7	955
作業	46	99	175	1	10	2	1	11	10	12	1	74	1	443
言語	2	77	143	0	5	2	0	5	0	0	0	77	0	311
合計	402	279	509	16	34	33	17	85	21	26	9	270	8	1,709

※救急医療科内に脳梗塞パス患者を含む
※他科：皮膚科、麻酔科、放射線治療科

（2）疾患別リハビリテーション単位数

【脳血管リハビリテーション（Ⅱ）】（１単位：200 点）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
理学	541	383	315	369	297	407	465	424	472	457	446	465	5,041
作業	454	399	391	435	371	393	360	330	482	310	388	451	4,764
言語	161	235	240	259	221	254	165	223	207	228	216	264	2,673

【廃用症候群リハビリテーション（Ⅱ）】（１単位：146 点）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
理学	69	37	82	123	146	105	180	179	125	156	149	160	1,510
作業	19	3	0	0	17	75	72	31	16	20	18	21	292

【運動器リハビリテーション（Ⅰ）】（１単位：185 点）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
理学	734	992	1091	766	1078	905	933	710	902	922	842	973	10,848
作業	124	94	157	169	161	159	111	128	109	91	124	135	1,562

【呼吸器リハビリテーション（Ⅰ）】（１単位：175 点）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
理学	44	29	147	152	99	56	53	120	125	57	117	147	1146
作業	0	7	39	0	0	0	0	3	4	10	52	20	135

【がん患者リハビリテーション】（緩和ケア病棟含まず、１単位：205 点）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
理学	60	43	83	205	108	76	74	73	138	73	40	69	1042
作業	0	6	15	0	7	0	1	13	16	0	10	3	71
言語	12	0	0	0	0	0	1	21	13	0	0	0	47

【摂食機能療法】（７月より算定再開、１件：185 点）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	0	0	11	19	12	22	23	15	6	0	27	135

（３）リハビリテーション総合実施計画書（１件：300 件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	78	90	78	79	82	92	86	80	88	77	75	110	1015

（４）リハビリテーション退院時指導（１件：300 点）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	11	13	9	8	7	14	9	4	13	12	13	9	122

（５）目標設定等支援管理料（10 月より算定開始、１件：初回 250 点 ２回目以降 100 点）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	0	0	0	0	0	6	4	1	2	3	0	16

４　おわりに

両磐地区の急性期リハビリテーションの一翼を担い、365 日体制の確立及び継続を目標にスタッフ一同邁進します。院内活動においてもＮＳＴ、ＩＣＴ、ＲＳＴ、ＣＰ、褥瘡、医療安全等委員会活動に積極的に参加し、チーム医療の推進に微力ながら協力したいと思います。

栄養管理科

栄養管理科長　馬場 美喜

1　概要

（1）職員数 37 名

管理栄養士　：　６名（科長１名、主任管理栄養士〈ＮＳＴ専従〉１名、管理栄養士３名、臨時管理栄養士１名）

調　理　師　：　30 名（調理師 13 名、臨時調理師９名、臨時調理手６名、時間制調理師２名）

時間制事務員：１名

（2）業 務 内 容　：　入院患者への食事提供及び栄養管理全般

入院・外来栄養食事指導、地域連携栄養食事指導

ＮＳＴ(専従配置)

実習生受け入れ　管理栄養士養成大学２名

2　栄養管理・栄養指導状況

患者給食延食数	202,903 食
特別食加算率	33.3%
選択メニュー件数	1,602 件
特別メニュー件数	518 件
＊給食管理収益	139,013,255 円
ＮＳＴサポート加算件数	375 件
（歯科医師連携加算 再掲 141 件）	
入院栄養指導算定件数	1,011 件
（初回：957 件、継続：54 件）	
外来栄養指導算定件数	1,103 件
（初回：312 件、継続：791 件）	
地域連携栄養指導	２件

3　業務状況

行事食	年 22 回
いわて食財の日	月　１回
いわて減塩・適塩の日	月　１回（平成 28 年６月より開始）
選択メニュー	毎日
特別メニュー	月　２回
緩和医療への取り組み　　おやつサービス	月　２回
個人対応率	40.1%
母親教室	月　２回
乳児栄養相談	月　２回
ＮＳＴ回診	週　１回
褥瘡回診	週　１回

栄養管理科運営委員会　　年　２回
両磐圏域栄養管理科会議　　年　１回

「安心・安全で美味しい食事を通して、病気の治療に貢献します」を目標とし、ＮＳＴ活動を中心とした栄養管理を行った。平成 28 年６月より岩手県としての取り組みであるいわて減塩・適塩の日を月１回開始し、食事を通して減塩の重要性についての啓発活動も行った。

いわて食財の日

いわて減塩・適塩の日

特別メニュー

緩和ティーサービス

臨床工学技術科

臨床工学技士　高山 秀和

1　部門の紹介・概要

臨床工学技術科は平成 15 年度に院内に多種多様にある医療機器の効率的運用および安全管理を目標としたＭＥ機器中央管理業務を中心に開設されました。2016 年現在、臨床工学技士５名体制となりＭＥ機器中央管理に加え生命維持管理装置に関する専門的知識・技術を基盤とする様々な臨床技術提供を行っています。また 2014 年度より千厩病院の人員配置を磐井病院に集約し、磐井病院から１名が兼務業務として千厩病院で勤務しております。兼務業務は１ヵ月ごとローテーションしております。また千厩病院に臨床工学技士が不在とならないよう、休暇時は磐井病院から千厩病院へ業務応援を行っております。

他部署との取り組みとしては看護科、医療安全室と協力し新採用者、中途採用者の方々が安全に輸液ポンプ、シリンジポンプを使用できるよう入職後に取扱い勉強会を行っております。

平成 28 年度科内の出来事は名称がＣＥセンターから臨床工学技術科へ変更となりました。新採用者(高野海渡)が採用され 1 名増員となりました。小野誓子が３学会合同呼吸療法認定士を取得、長沼優弥が透析技術認定士を取得しました。

2　業務実績

［スタッフ］

高山秀和(卒後 20 年) / 佐藤由梨(卒後 15 年) / 小野誓子(卒後９年)

長沼優弥(卒後　４年) / 高野海渡(卒後　１年)

［勤務形態］

磐井病院　４名　勤務：月～土　勤務日夜間・日曜：１名待機

千厩病院　１名　勤務：月～金　※祝日除く

［認定資格］

○ 体外循環技術認定士:高山秀和

○ ３学会合同呼吸療法認定士:高山秀和、小野誓子

○ 透析技術認定士:佐藤由梨、小野誓子、長沼優弥

［業務集計］

補助循環業務

業務の内容	症例数（臨時）
ＩＡＢＰ	5(　5)

血液浄化業務

業務の内容	延べ施行件数（臨時）
血液透析	1,668(11)
血液透析(出張)	8(　4)
胸・腹水ろ過濃縮再静注法	55(33)
血漿浄化療法	14(　0)
白血球除去療法	5(　0)

エンドトキシン吸着療法	10(　5)
持続血液濾過透析	4(　3)
合　計	2,259(497)

ペースメーカ関連業務

業務の内容	症例数（臨時）
ペースメーカーチェック（外来）	442(　3)
ペースメーカーチェック（外来以外）	44(　5)
ペースメーカー、リード植え込み、交換	49(　3)
植込みデバイス立ち会い	28(　6)
ＩＣＤ/ＣＲＴＤチェック	69(　7)
合　計	632(24)

呼吸治療業務

業務の内容	症例数（臨時）
装着時の立会い	3(　2)
呼吸回路の交換	12(　8)
呼吸ケアチームラウンド	47(　0)
その他	6(　5)
合　計	68(15)

心・血管カテーテル業務

業務の内容	症例数（臨時）
心臓カテーテル検査	127(　7)
ＰＣＩ	98(53)
ＰＴＡ	8(　0)
体外式ペースメーカー留置	10(10)
合　計	218(45)

手術領域での業務

業務の内容	症例数（臨時）
血液回収	10(　0)

ＭＥ機器管理業務

内容	件数
作動中点検	2581
始業点検、終業点検	5917
定期点検(臨床工学技術科で施行)	456
定期点検(メーカで施行)	3
合　計	8,957

★修理

内容	件数
臨床工学技術科で対応	181
メーカーに依頼	10
合計	191

★中央管理業務

機種	保有台数(平均貸出率)
送液装置	130(67%)
人工呼吸器（挿管用）	5(66%)
人工呼吸器（マスク用）	6(37%)
深部静脈血栓予防装置	25(66%)
低圧持続吸引装置	11(35%)
ネブライザ	24(82%)

待機と時間外対応

内容	件数
来院し対応した件数	50
電話で対応した件数	21

業務応援日数(花泉、千厩、大東)　　10 日

医療福祉相談室

医療社会事業士　　川村 菜緒美

1　部門の紹介・概要

医療福祉相談室は、「社会福祉の立場から、患者・家族のかかえる経済的・心理的・社会的問題の解決調整を援助し、社会復帰の促進を図る（医療ソーシャルワーカー業務指針より)」業務を行っており、医療社会事業士 4 名体制で様々な相談に対応した。

2　活動内容

（1）平成 28 年度医療相談の状況　取扱件数 3,599 件、一般相談件数 6,696 件

① ケースの件数

区分	実件数			取り扱い件数	打ち切りケース			
	継続	新規	合計		解決	中断	諸機関へ紹介	合計
累計	1,755	635	2,390	3,599	581	0	0	581

② 問題別件数

区分	経済		医療・福祉諸制度	医療・保健等	環境				退院・社会復帰	その他	合計
	医療費	生活費			心理・適応	院内・付添い	家庭内	職場・学校			
累計	243	78	1,243	1,948	103	67	297	16	1,558	61	5,614

③ 援助の内容

区分	諸制度手続き指導	情報収集・提供	方針協議	心理的援助	連絡・調整	施設機能の説明	関係機関への紹介	その他	合計
累計	316	3,031	479	317	1,349	16	51	5	5,564

④ 援助の方法

区分	累計
面接	6,794
訪問	4
電話	2,122
文書	115
ケースカンファレンス	856
合計	9,891

⑤ 新ケースの紹介経路

区分		累計
本人		12
家族		53
院内より	医師	47
	看護師	424
	医事職員	0
	その他の院内職員	0
	ワーカー発見	0
院外	行政機関	7
	他医療機関	9
	福祉施設	83
	職場・学校	0
その他		0
合計		635

⑥ 一般相談

一般相談	共同カンファ	累計
3,343	3,353	6,696

（２）その他の活動

・地域がん診療拠点病院のがん相談窓口対応、患者家族サロンへの協力
・緩和ケアチームカンファレンス、多職種カンファレンス等
・退院支援共同カンファレンス、リハビリカンファレンス等
・地域母子保健活動への協力
・中学生、高校生に対する啓蒙活動
・地域連携パス検討会参加
・採用３年目研修参加
・一関地域自死とうつに関するネットワーク会議出席

・岩手県がん情報提供・相談支援部会出席
・東北がんネットワーク会議出席
・医療社会事業士会研修会学会参加、ブロック研修参加、初期研修企画運営
・平成 28 年度岩手県新採用研修先輩からのメッセージ講師
・一関高等看護学院講師（社会福祉）
・院内勉強会講師
・医療連携士実習講師
・関西大学医大生実習講師

（３）地域医療福祉連携室医療相談部会の活動
・医療相談カンファレンス（毎週水曜日開催）計 50 回
・地域医療福祉連携室医療相談部会　　第１回　平成 29 年３月２日

平成 28 年度の取り組み重点項目として

・ 患者サポート体制充実のため毎週カンファレンスに参加、医療相談部会の開催など、利用が安心して相談できる体制整備に努めた。
・ 退院支援部門として退院支援共同カンファレンスに参加し、退院困難者への早期介入、ケアマネージャー等地域の関係者との連携に努めた。
・ 多職種カンファレンスや退院前カンファレンスに参加し、必要に応じて院内外の職員と連携・調整行い支援にあたった。

今後も、利用者と信頼関係を構築し主体性を尊重した相談援助を行うとともに、地域包括ケアの推進に寄与出来るよう院内多職種や地域の関係機関と連携を図りながら活動していきたいと思います。

総 務 課

総務課長　熊原　健一

１　部門の紹介・概要

総務課は、総務係、管財係及び臨床研修センターで構成され、正規職員 10 人、臨時職員９人（臨床研修センター配置、図書室配置、運転手兼作業手及び電話交換手を含む。）の 19 人体制で業務を行っています。

【総務係】

給与関係、経理関係、賃金・報酬関係、旅費関係、福利厚生関係などを担当

【管財係】

資産関係、材料関係、修繕関係、委託・保守関係、購入関係などを担当

【臨床研修センター】

臨床研修医関係、医局関係、医学生見学などを担当

２　主な行事・出来事

（１）岩手県立大東病院給食業務委託の更新

岩手県立大東病院の平成２９年度給食業務委託更新に向けて５月１６日に委託技術提案審査委員会を設置し簡易公募型プロポーザル実施や委託業務内容の検討、技術提案書の評価・審査及びヒアリング等を経て特定業者を選定した。

（２）進路選択セミナー

８月４日、高校生に医師、看護師及びその他医療職の業務を知ってもらうため、一関市内の高校２年生を対象とした進路選択セミナーを行った。

また、12 月 17 日には、一関一高附属中学校２年生を対象とした進路選択セミナーも行った。

（３）両磐地域災害医療実地訓練

２月 14 日、一関保健所や各医療機関と協力して訓練を行った。訓練は情報収集・伝達訓練をメインに行い、当院は基幹病院及び災害医療コーディネーターとしての役割の確認や衛星携帯電話を活用した情報伝達訓練、広域災害救急医療情報システム（ＥＭＩＳ）の入力訓練などを主に行った。

（４）その他

５月 25 日、26 日	県監査委員事務局による予備監査（指摘事項なし）
７月　７日	参議院選挙　不在者投票
７月 16 日	医療局開庁記念病院対抗球技大会　南部地区大会
８月　２日	保健所立入調査（不適合事項なし）
８月　６日	一関夏まつり　くるくる踊りに参加
９月　３日	医療局開庁記念病院対抗球技大会　県大会
10 月 23 日	漏電検査
１月 10 日	両磐地域県立病院連携会議
２月　７日	磐井病院・南光病院合同防火防災訓練
３月　３日	磐井病院・南光病院合同防火訓練

医事経営課

医事経営課長　吉田 学

1　部門の紹介・概要

平成 28 年度は正規職員 12 名、臨時職員７名（12 月～8 名）、時間制職員１名の 20 名体制で業務を行いました。

2　活動内容

（１）病院経営への参画

毎月開催される経営部会、病院運営連絡会議及び診療運営委員会へ資料提供や診療報酬関係情報のグループウェアへの掲示など適時適切な情報発信に努めました。

また、厚生労働省へ提出するＤＰＣデータに平成 28 年 10 月から新たに重症度、医療・看護必要度の各項目（Ｈファイル）が追加され、7 対 1 入院基本料の患者割合要件が 15%以上から 25%以上に引き上げられたことへの対応を行いました。

７対１入院基本料を引き続き維持するため看護科と医事経営課が協力し、新たな制度上も基準を満たすかデータ提出前に確認すべく当院独自のチェック方法を構築、実施し事前に確認を行いました。

他病院に先駆けた当院独自の取組みとして、事務管理研究会で優秀賞を受賞したほか、病院運営に対する貢献を評価され看護科とともに所属長表彰を受けました。

（２）個人未収金への対応

個人未収金管理については、24 時間会計、コンビニ収納、救急会計のクレジットカード払いの積極的活用等医事業務委託職員と協力し発生防止及び支払いやすい環境の整備に努めました。

また、未収回収専門員及び事務局長をはじめとする事務局職員と医事業務委託職員の協働による自宅訪問回収を実施しました。

これらの取組みを行い回収に努めましたが、平成 29 年２月末過年度個人未収金残高は前年同月より 214 万円程度増加となっています。

（３）査定減対策への対応

査定については、全件について医事業務委託職員と分析を行い、査定点数にかかわらず積極的に再審査請求を行いました。

査定率は医保（29 年１月末累計）0.09％（前年比▲0.01％）、国保（28 年 12 月末累計）0.14％（前年比+0.07％）となっています。

（４）救急トリアージシステムの運用

救急部門の業務軽減等のため、平成 28 年５月から救急トリアージシステムの運用を開始しました。

今後、実施状況や予算状況を踏まえ総務課及び救急部門と連携しながら電子カルテとの連携など必要な改修等について検討していきます。

（５）保安専門員の採用

近年、増えている暴言・暴力、威圧的な態度などトラブルを起す患者への対応のため、平成 27 年４月から保安専門員（警察官ＯＢ）を１名採用しました。患者の療養環境、職員の安全・安心の確保に貢献しています。